

《目次》

【診療科・部門紹介】

- 》 心臓血管内科
- 》 皮膚科
- 》 遺伝カウンセリング室
- 》 全身管理歯科治療部
- 》 放射線部

- チョコレートがしみる!! それは知覚過敏症かも?
- 糖尿病患者さんの足を守るフットケア
- 鹿児島大学病院 エコ施設の紹介
- 錦江湾魚ごよみ
- **病院再開発** 新病棟に免震装置が設置されました。

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

1. 良質な医療を公平に受ける権利
2. 人としての尊厳を尊重される権利
3. プライバシーや個人情報が保護される権利
4. 自分の状態や診療内容について説明と情報提供を受ける権利
5. 自分の意思で医療を選択する権利

〈患者さんの責務〉

1. 自分の健康状態についてできる限り正確な情報を提供する責務
2. 当院の規則を守り、迷惑行為を慎む責務
3. 診療費を速やかに支払う責務

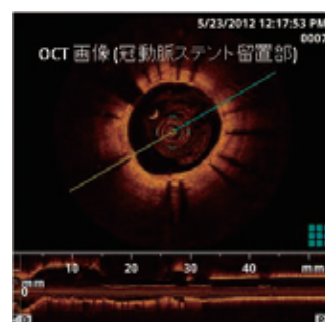
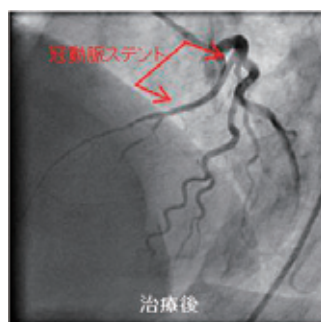
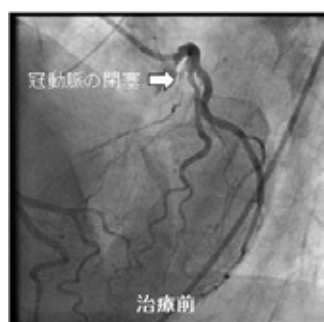
心臓・血管の病気の 検査・治療を行う

心臓血管内科

心臓は、生まれたときから絶え間なく全身に血液を送っています。体全体へしっかりと酸素や栄養を届けるためには、心臓や血管が健康であることが大切です。日本人の死因の第2位は心疾患です。私たち心臓血管内科医は、心血管疾患から健やかな生活を守るため、24時間体制で患者と向き合っております。当科では毎年約9000件の心臓超音波検査や、約800件の心臓カテーテルを用いた検査・治療を行っております。

狭心症・心筋梗塞

心臓の表面には冠動脈^{かん}という血管が走っており、心臓の筋肉へ酸素や栄養を送り届けています。“狭心症”や“心筋梗塞”は、冠動脈がいたんで狭くなったりつまったりする病気です。必要なときには、狭くなった血管を血管内超音波検査で確認しながら、風船やステント（金網）などを用いてしっかりとひろげます。しかしながら一部の症例では、1年以内に治療部位が再び狭くなり、複数回の治療を余儀なくされることもあります。最近では光干渉断層法（OCT）を用いて、これまで見えなかったステント部位の状態がより明確にわかるようになってきました。ステント治療した部分がどのような理由で再狭窄しているか、そのメカニズムを解明し、よりすばらしい治療成績が得られるよう日々の診療に役立てております。



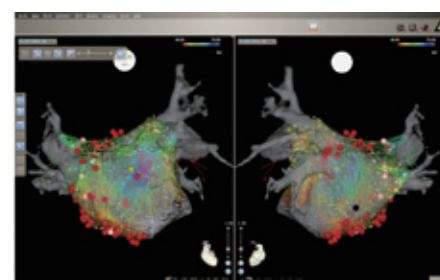
心房細動

心臓は、“心房”という心臓の上の部屋から下の部屋へ「動け」という電気信号が流れて動きます。しかし心房が傷つき、その傷から電気がばらばらに出ると心房が細かく動き、“心房細動”となります。心房細動の状態では、心房の中の血液がよどむため血のかたまりができやすくなり、それが全身に飛んで脳梗塞などを起こす原因となります。薬物による治療が基本ですが、最近は“高周波カテーテルアブレーション（心筋焼灼術）”が行われるようになってきております。カテーテルという細い管を心臓の中に持っていき、高周波を出して温度を上げ、カテーテルの先端の心筋を焼灼します。従来の『肺静脈隔離術』に加え、当科では心房の傷から出る異常な電気信号をていねいに焼灼していく『CFAE アブレーション』という治療法を組み合わせ、全国レベルのアブレーションを行っております。

病気や治療についてのご質問などございましたら、お気軽に当科外来までご相談頂ければ幸いです。



アブレーション治療中の風景



● 焼灼部位
● 心房細動停止焼灼部位

左心房の構造を立体的に把握しながら
慎重に治療を行います

皮膚から全身の病気を照らす

皮膚科

皮膚科は皮膚の診察、治療を行う科ですが、皮膚しか診ない科ではありません。

皮膚の病気には白癬(みずむし)などのように、皮膚にだけ病気ができるものもありますが、ウイルスや細菌などの全身の感染症、内臓の悪性腫瘍(癌)、糖尿病などの代謝疾患、膠原病などの免疫疾患、薬のアレルギーなどが原因となって皮膚に発疹が出来る病気が実は多いのです。

そのため私たち皮膚科医は、ただ単に皮膚病の症状を抑えるだけでなく、何が原因となっているのかを常に考え原因を探る必要があるので、CT、エコーなどの画像検査も積極的に行っています。

当院の皮膚科では、採血などの一般的な検査だけでなく、パッチテスト、プリックテストなどのアレルギー検査、皮膚生検による組織学的検査も行い診断に役立てています。ダーモスコピーという装置で皮膚の病変を拡大して観察することもあります。

治療のお話です。皮膚病の治療というと皆さんはすぐに軟膏を皮膚に塗る治療を思い浮かべるとと思います。たしかに軟膏などの外用剤による治療は、今でも皮膚病の治療の中心です。

しかしそれだけではなく、皮膚病の治療には様々なものがあります。紫外線や赤外線を皮膚に照てる光線療法、太田母斑などの黒いあざに使うレーザー(Qスイッチルビーレーザー)治療、主に疣贅(いぼ)に使う冷凍凝固法、皮膚にできた腫瘍を切り取り、再建する手術、がん患者さんには他のがんと同じように抗がん剤や、放射線を使うこともあります。

当院皮膚科が世界で最初に皮膚病に使った治療があります。それは、顆粒球吸着除去療法といえます。本来外敵から人体を守るはずの白血球の一種である顆粒球という細胞が過剰に暴れて起こる病気があります。この治療は、暴れている顆粒球のみを人体から除去して症状を抑えていきます。この治療の良いところは、非常に効果があるにもかかわらず、大きな副作用がないということです。今まで私たちは掌蹠膿疱症、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、壊疽性膿皮症、ベーチェット病などの病気にこの治療を行い、効果を上げています。

皮膚に関する御相談がありましたら、遠慮なく皮膚科外来(TEL 099-275-5850)にご連絡ください。

遺伝に関する相談に 専門医と臨床心理士が対応 遺伝カウンセリング室

遺伝、遺伝子、染色体という言葉は知っていても、その理解は一般の方には難しいことが少なくありません。遺伝カウンセリング室スタッフは、できる限りわかりやすい言葉を選んで、分からない・知らないことから来る不安を減らすことを第一に考えています。

遺伝に関する相談に対し1時間程度の十分な時間を取り、専門医と臨床心理士が相談に応じます。雑談等も交えてリラックスした雰囲気を作るように努力していますので、質問も気兼ねなくできます。

ただし、遺伝に関する相談が主な業務ですので、診察や検査が必要な場合には、各診療科を紹介いたします。また、各診療科からの依頼で、遺伝子診断前後の説明や病気の遺伝性の話をさせていただくこともあります。あらゆる疾患に対応できるように、国内外の専門家と連絡できる体制をとっています。

子供をもうけると、50%の確率で重症の遺伝病になるとっておられた方が来られ、実際に話をしてみると、ほぼ0%であることが分かり、嬉しそうに帰っていかれたケースもありました。ちょっとした勘違いと言えばそれまでですが、遺伝に詳しい医師を探すことは容易でないのが現実のようです。



歯科治療中の全身管理を行う 全身管理歯科治療部

全身管理歯科治療部では、主に歯科治療中の全身管理、精神鎮静法、ペインクリニックを行っています。歯科治療中の全身管理とは、有病者（高血圧、不整脈、脳梗塞、心筋梗塞、狭心症、喘息、糖尿病など）の方が歯科治療を受ける時に、血圧計や心電図などを用いて全身状態を監視し、必要に応じて点滴をしたり薬を注射したりして病気が悪化しないように全身状態をコントロールしながら安全に治療を受けていただくものです。

精神鎮静法は、歯科治療が怖い方や嘔吐反射（口の中にもものを入れると吐き気がする）の強い方に麻酔のガスを吸っていただいたり、点滴から鎮静剤を投与したりすることで、リラックスした状態または半分眠った状態で苦痛を感じずに歯科治療を受けていただくものです。精神鎮静法は、精神的緊張を和らげ、血圧や心拍数を安定させることができるため、有病者の全身管理として行うこともあります。

ペインクリニックは、痛みを減らす治療を行います。口や顔の痛みやしびれをブロック注射、レーザー治療、鍼治療、投薬などで和らげます。

歯科治療時の不安や頭頸部のしびれや痛みでお困りの方は、全身管理歯科治療部へお越し下さい。



近赤外線照射治療



星状神経節ブロック



鎮静風景

安全で正確な放射線診断・治療のために

放射線部

放射線部は診療部門と技術部門から成り、それぞれ放射線を使って病気を診断する放射線診断系と放射線を使って病気を治療する放射線治療系、放射性同位元素を使って病気の診断治療を行う核医学系の3つの部門に放射線科医師、診療放射線技師、看護師が配置されています。技術部門には最先端の放射線診断・放射線治療機器が設置され、放射線診断系には、一般撮影装置、透視撮影装置、血管造影装置、CT装置、MRI装置などがあります。放射線治療系には高エネルギー放射線発生装置を使って人体の外から腫瘍を治療する外照射治療装置や放射線を人体の内側（腔内）から照射して治療する腔内照射治療装置また放射性物質を密封した小線源を人体に埋め込む永久刺入治療を行うための装置が設置されています。核医学系では体内に放射線を出す薬剤を注射し、PET-CTなどを使用して腫瘍を発見したり、放射線の薬剤によって治療したりします。我々、放射線部スタッフは正確な病気の診断ができるように診断価値の高い画像や読影レポートを提供したり、患者さんに精度の高い放射線治療を安心して受けていただくために最先端の装置を積極的に取り入れて放射線機器や検査で使う放射線量の管理、放射線治療機器や放射線治療の精度管理に努めています。



3テスラMRI装置



320列マルチスライスCT装置



PET-CT装置



放射線治療装置

チョコレートがしみる!! それは知覚過敏症かも?

成人系歯科センター・保存科

●“むしば”ではないのに、歯がしみる!

チョコレートなどの甘いお菓子や冷たい飲み物がキーンとしみたり、歯ブラシの毛先があたるとズキン!とするということはありませんか? ムシ歯が神経(歯髄)まで進んでいると、同じような痛みがあらわれることがあります。写真のようにムシ歯がないにもかかわらず、そういった症状が生じることがあります。それは知覚過敏症かもしれません。



●知覚過敏症ってどんな病気なの?

歯の口の中に出ている部分は硬いエナメル質で覆われていますが、様々な原因でエナメル質が減って内側の象牙質が出てきたり、歯周病で歯ぐきがやせて根が出たりした場合、そこに刺激が加わった時に痛みを感じます。知覚過敏症では、次のような症状があらわれることがあります。

- ①冷水痛 冷たい飲み物などを口に含んだ時に痛みを感じます。
- ②甘味痛 サラサラとした飲み物に比べ、甘いお菓子は歯の表面に長く残っていることがあるので、その間、痛みが続く場合もあります。
- ③歯ブラシによる痛み 特に歯と歯ぐきとの間に歯ブラシの毛先をあてた時に痛みが出る場合が多いようです。
- ④刺激がなければふつう痛みません。

●どうやって治すか?

知覚過敏症の治療法には、

①お薬を使ってしみる歯の面に刺激を遮断するフタや膜を作る。

フッ素等を配合したお薬をしみる歯の面に塗布したり、プラスチックの成分を塗布して歯の周囲にバリアを作る方法等があります。

②歯を削って詰め物をする。

①の方法のように歯を削らずにお薬で治らない場合には、歯を削ってプラスチックやセメントで厚い壁を作ります。その際、歯髄の炎症を緩和するためにお薬を塗る場合もあります。

③神経を抜く。

②の方法でも治らないような場合には、神経を抜く(歯髄を取る)場合もあります。

ご心配のある方は、一度、早めにお近くの歯科医院で診てもらってください。

糖尿病患者さんの足を守る フットケア

内科外来

糖尿病看護認定看護師 上野 和美

糖尿病で血糖値の高い状態が続くと神経や血流に障害が出て特に体の末端である足に異常がおこりやすくなります。また、感染に対する抵抗力が低下するため、傷口が化膿しやすく、足の水虫や小さな傷、やけどなどから、気がついた時には、足の状態がとても悪くなっていたということがあります。最悪の場合、足の切断という不幸な結果を招くこともありますから、十分な注意が必要です。足の病気を予防するために、普段から足をよく見て、手入れを心がけましょう。

また、足のトラブルの原因は「靴ずれ」が圧倒的に多いといわれています。糖尿病患者さんにとって靴選びは、足を守る上でとても重要です。靴は自分の足の長さや幅など、足に合ったものを選びましょう。靴を履く前には、必ず靴の中をチェックし、小石などの異物が入っていないか確認することも大事です。

水虫や巻き爪、タコなどの足の
トラブルで困っている。

足の傷がなかなか
良くならない。



爪が厚くてうまく切れない。
切っても深爪になってしまう。

自分でどんな手入れを
すればいいの？

どんな靴を選べばいい
のか分からない。



このような足のお悩みをお持ちの糖尿病患者さんのために、糖尿病・内分泌内科外来では医師の指示のもと、糖尿病看護認定看護師が『フットケア』を実施しています。

『フットケア』では、足のトラブルを早く発見して、悪化しないようにお手伝いさせていただきます。

『フットケア』で行うこと

- 正しい爪の切り方や足の観察方法の説明
- 靴下や靴選びのアドバイス
- 足浴
- 爪きり、爪削り、巻き爪の手入れ
- タコの手入れ
- 糖尿病の療養相談 など



フットケアの様子

木質バイオマスボイラーの導入

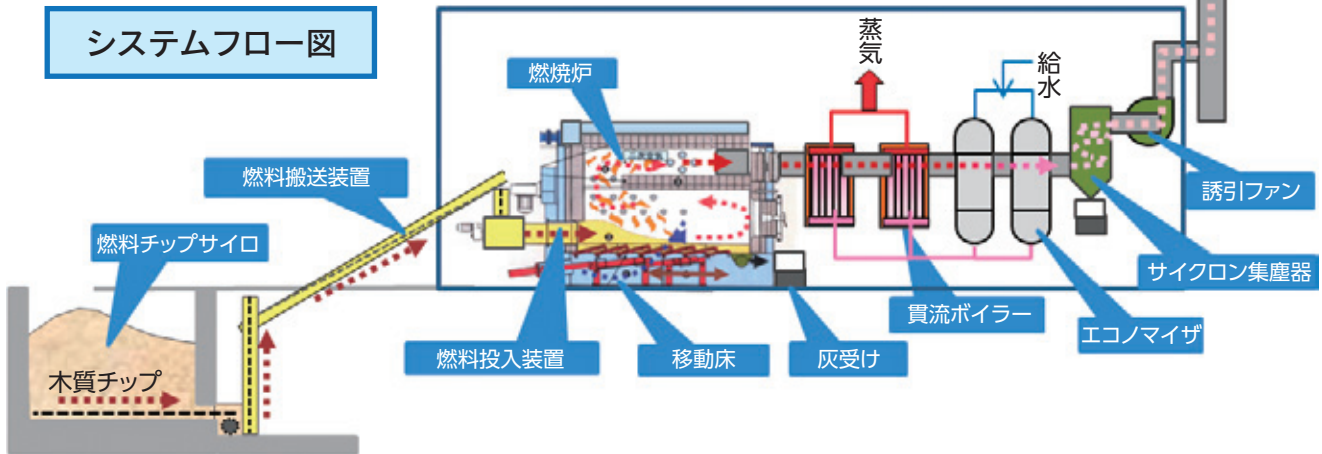
鹿児島大学は、地球温暖化対策実施計画を定め、省エネルギーへ積極的に取り組んでおります。鹿児島大学病院ではCO₂排出量削減及び鹿児島県の豊かな森林資源から生まれる木材の有効活用を目的として、木質バイオマス(木質チップ)を燃料とする「木質バイオマス蒸気ボイラー」を導入し、平成24年3月22日完成式典を行い、4月より蒸気滅菌や給湯等の熱源として本格稼働しています。



ボイラー全景



チップ燃料を投入した燃焼炉



トピックス

木質バイオマスボイラー 完成式典風景



吉田学長 挨拶の様子



テープカットの様子
岩元農学部長(奥)、吉田学長(中央)、熊本病院長(手前)

閉じ込められた漂流者

勢力の強い台風が東シナ海を北上していきました。錦江湾は久しぶりに大時化となりました。翌日、与次郎ヶ浜長水路の水面には、波が運んだ大量の流れ藻が浮かんでいました。流れ藻は思わぬ客人を連れて来ます。私は、長水路の海中に潜ってみることにしました。

水面を覆う流れ藻を掻き分けて海中に入ってみると、海面を覆う流れ藻の隙間から夏の日差しが差し込み、まるで木漏れ日の差す森の中を歩いているような気分です。そして、木漏れ日の光の中を金色の小魚が群れて泳ぎまわっていました。それは、ブリやカンパチの幼魚たちでした。彼らは、外洋を漂う流れ藻に寄り添って、幼少期をおくるのです。普段は見るできない外洋の光景です。カメラを構え、その群れを追っていると、突然流れ藻の中から茶色い塊が躍り出し、一匹の幼魚を吸い込むように捕らえました。それは、流れ藻の中に溶け込むような姿をしたハナオコゼでした。彼らは、幼魚たちにとって悪魔のような存在です。流れ藻の中に潜んで、幼魚たちを襲うのです。

2週間後、長水路を覗き込むと、あれだけたくさん浮かんでいた流れ藻が、姿を消していました。どうやら全て海底に沈んでしまったようです。私は再び海に入りました。幼魚たちは、寄り添う流れ藻を失い、散り散りになったようです。それとも、全てハナオコゼの胃袋に収まってしまったのかもしれませんが。何も無くなった海面に、所在なげに1匹のハナオコゼが漂っていました。外洋を漂う流れ藻とともに漂流生活を送る彼ら。長水路に閉じ込められてしまった彼らには、どんな未来が待っているのでしょうか。



海面を漂うハナオコゼ。隠れる流れ藻を失っても、海藻の切れ端のように見える擬態は見事。

TOPICS

病院 再開発

現在の建物は築後30年以上が経過しているため、病院内施設の充実、患者さんの療養環境改善を目的に、平成19年度から建物の増築・改修を行っています。ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いします。

新病棟に免震装置が設置されました。

現在建築中の新病棟に免震装置が設置されました。新病棟には全部で48個設置されます。免震構造となっている新病棟は、地震のときにはゆっくりと水平に揺れるために、建物への衝撃を小さく抑えることが可能です。一昨年稼動した中央診療棟も免震構造となっています。患者さんの命を預かる大事な施設ですので、地震への備えは万全です。



建築現場

広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。
また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈26号〉

2012(平成24)年7月発行

発行／鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>